

---

# おかしな・おかしな

地海月

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

おかしな・おかしな

### 【Nコード】

N1981Z

### 【作者名】

地海月

### 【あらすじ】

作者の無謀。ただそれだけ。

「お幸せに……」

そう呟いてから去った。

初めて愛した人の幸せを見届けた。

初めて恋した人が幸せを貰うのを見届けた。

私の役割は終わった。

君は私のことが嫌いだろう。

君は私のことを忘れることはないだろう。

彼はいい人だ。

君と共に生き

君に幸せを贈り

君は幸せを贈り返すだろう。

役目を終えた道化は去ろう。

君につけられた傷を大事に抱えて生きていこう。

枯れた心は輝が入り

枯れた涙腺からは涙がでない

ああ、何て滑稽なんだ。

踊った先に笑いはなく

演じた先に感動はなく

盛り上げた先に未来がない

遠い喧騒が今は煩わしい。

## ビデオレター（前書き）

一組のカップルに贈られたビデオレター。  
カップルは慟哭した。  
喪ってしまった人をおもって。  
もうあえない親友をおもって。

## ビデオレター

最初はその笑顔に惹かれたんだ。

君は独りだった僕を救ってくれた。

君がその時何を思ってたか知らないけれど。

差し延べてくれた手が - 僕に向けてくれたその笑顔が - 僕の孤独を取り除いてくれたんだ。

次にあつたとき君は泣いていたね。

なんで泣いてたのか君は言わなかったよね。

僕は何も聞かず、何も言わずに…そっと隣に座った。

孤独から救ってくれた君に恩返しがしたかったから。

三度目にあつたとき君は笑っていた。

少し無理してた笑顔だったけど - 僕はあの時の恩返しができたと思っただ。

僕は君が好きだったんだよ。

三度目にあつたときに自覚したんだ。

これが恋なのだとね。

四度目にあつたとき、君と友達になった。

君といるだけで幸せだった。

友達になってから一年目くらいの時だっけ？君に恋人が出来たのは。

僕は…君からそれを聞かされたとき笑えてたかな？

それから三人でいろいろしたっけ？

いろいろなところに行っただね。

君は楽しそうだった。  
君は幸せそうだった。

君が付き合い出してから二年目くらいときだったかな？君の恋人  
が入院したのは。

駆け付けた僕たちは、笑って元気だといった君の恋人に安心した  
っけ？

君の安堵の涙が綺麗だった。

僕は二人きりにするために病室を出たね。

遠慮しないでいいのにと二人ともいつてたけど。

その後ぶらぶら歩いている時に知ってしまったんだ。

君の恋人が重い病気で。

臓器が移植出来ないなら そう長くない期間で死んでしまうと。

幸いわかるほど悪化するのとは末期だと言ってたけど…。

僕は…君を悲しませたくなくて - 病室にかえった時にどうしたのと  
聞かれて…最初の嘘をついたんだ。

その後毎日お見舞いに行ったね。

そのたびに辛かったんだ。

僕はしってるけど…君達はしらなかつたから。

君を悲しませたくなかつたからね。

苦しかったよ、言えないことが。

半年後くらいだっけ？医者に余命宣告されたのって。

君達の顔を僕は見れなかつた。

言えばよかつたと後悔したよ。

君達の慟哭をみてしまったからね。

それからしばらくして、ドナーが見つかったよ。  
誰だったと思う？

そうだよ。僕だったんだ。  
だけど僕は健康だった。

他にドナーとなりえる人がいないと知って…膝が崩れおちたよ。  
他のドナーを見つかる程時間が残されてなかったからね。

日々やつれていく君達をみて…僕は - 決心したんだ。

それからの僕の行動は早かったね。

君達に嘘をついてそこらじゅうを飛び回ったよ。  
脳天気そうに見えてたのかな？

しばらくして、君達にあつたとき君達は僕に怒りをぶつけたね。

僕はその時どんな表情してたかな？  
僕は何も言わずに立ち去ったけど。

それが最後だったね。

治るって医者に言われたとき君はどんな表情してたかな？  
嬉し泣きだったと僕は思うな。

二人して抱き合ってわんわん泣いてるのが思い浮かぶよ。  
その後電話かけてくれてたみたいだね。

ごめんね。僕出れなかったんだ。  
…言ってしまったから。

これを見るってことは無事に手術は終わったんだね？おめでとう。  
直接言えないのが残念だけど、仕方ないよね？僕もう生きてないし。  
僕が勝手にしたことだから誰もうらまないでね。  
せっかく命はってプレゼントしたんだから。

もう時間も残ってないし…最期にこれだけいって逝くね。  
好きだよ…○○○○。お幸せにね。

幸せにしてあげてね？君は僕なんだから。

バイバイ…○○○○。

僕幸せだったよ。

元気でね。

寿命で死ななかったら許さないだからね…。

欲を言えば…君達の幸せ見届けたかったなあ…。

最期にいうことじゃない気がするけどね。

## ビデオレター（後書き）

私書き終わって涙出ました（；）

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n1981z/>

---

おかしな・おかしな

2011年12月7日03時08分発行